

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也  
[http://www.s-kinder.com /index.html](http://www.s-kinder.com/index.html)

## ●1月のひとコマ



<雪が積もった!!>



<年長児:卒園製作>



<年中・年長児なわとびの特訓>



<寄せ豆腐を食べよう>



<せいかつ展>

## 見えない壁をつくるのか、こわすのか

平成23年に川内幼稚園の敷地内になあもの森保育園という認可保育園を作り、制度変更に伴い、現在では0~2歳児が木造園舎で過ごし、3歳になったら2階建ての園舎(旧川内幼稚園園舎)で過ごすという生活の流れになりました。

10年ほど前は、年少の学年から50人近くの集団保育の経験がない子どもたちが入園してきたわけですから、保育室の中はあれやこれやと常に気の張った緊張状態が続きます。「あっちもこっちも泣いている子どもがいる!」、「あっちでは帰ろうとするお母さんを追いかけて外に出ようとしている!」、「名前の書いていないタオルが落ちてる!誰の?誰の?(子どもたちに聞いてもわからない...)」。何か活動をするというより、子どもたちが園での生活に少しずつ慣れて安心感を得ていったり、園生活のルールを学んでいったりということに多くの時間を要しました。

保育園ができてからは0~2歳児から園生活を送ってきた子どもたちが進級してくるので、新しく入園する子の割合が減り、進級してくる子どもたちが新入園児にいろんなことを教えてあげたり、引っ張ってくれたりするだろうという淡い期待を抱いていました。しかしながら進級してくる園児も登園時に泣いている姿を多く見かけたため、思っていたのと違う...と、みんな頭を抱えたのをおぼえています。

園舎が変わるだけと思っていた大人の目論見が甘かったのでしょうか。子どもたちは2階建て園舎の中をあまり見たことがない、先生も(トレーナーは同じであれ)あまり見たことのない先生。保育者はそれぞれの場所もわかっていて、先生同士も知った中なので大丈夫だと思っていたことが、子どもたちにとっては未知の世界だったのかもしれませんが、そこから、子どもたちが年齢問わず一緒に過ごす時間を積極的に取り入れ、自分のクラス以外の部屋でも自由に遊んでいいよと、園内でのルール変更を行いました。

風土が変わるのには時間がかかりましたが、今では年長児が0歳や1歳のクラスに行って、小さい子のお手伝いをしてくれたり、年少児がお姉ちゃんのクラスに行ったりする姿があたりまえのように見受けられるようになりました。周りのみんなも排除するのではなく、自然と一緒に遊んであげています。意図せず大人が作っていた見えない壁がいろんなことを阻んでいたのでしょうか。壁のなくなった生活の中で、子どもたちは自由に選択し、自己決定しています。普段気付かないだけで自分の中には良くも悪くもいろんな見えない壁があるようです。